土 質 ボ ー リ ン グ 柱 状 図

調　　査　　名

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象

ボーリング名	No.1	調査位置				北　緯	
発注機関		調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人	地質調査技士 登録番号：	コア鑑定者	地質調査技士 登録番号：
						ボーリング責任者	
孔口標高	KBM ＋ 0.54m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°
総削孔長	13.38m					使用機種	試錐機：東邦地下工機製 DO-D
							エンジン：ヤンマー製 NFD-12　ポンプ：YBM製 ＧＰ－５

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
	-0.36	0.90		盛土		暗茶			φ30～100㎜大のコンクリートガラ及び土塊を混入する、やや含水の高い砂質土を主体とした盛土である。	
1										
2				シルト質粘土		暗緑灰			含水中位で、やや軟弱な状態のシルトを帯びた粘土であり、層全体に均質な状態である。	
3										
4	-4.26	4.80								1/ 6 5.10
5									低～中位の含水を帯びた状態であり、混入物は観られず均質な状態の中砂である。 少量の雲母粒を混入する。	
6				中砂		黄茶灰				
7	-6.56	7.10								
8						暗灰			φ10～30㎜大の角礫及び粗粒砂を主体とし、マトリックスにシルト及び粘性土を少量混入する。 礫径は最大φ50㎜大である。 深度を増すに従い密で締まった状態となる。	
9						～				
10				砂礫						
11						暗青灰				
12										
13	-12.84	13.38								
14										
15										
16										
17										
18										
19										

標準貫入試験　深度―Ｎ値図　0 10 20 30 40 50 60

深度 (m)	Ｎ値	100㎜毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
1.150		1	1		2		
2		150.0	50.0		300.0		
1.450							
2.150		1	1	1	3		
3		150.0			350.0		
2.500							
3.150		1	1	2	4		
4					300.0		
3.450							
4.150		1	1	1	3		
3					300.0		
4.450							
5.150		3	4	5	12		
12					300.0		
5.450							
6.150		2	3	7	12		
12					300.0		
6.450							
7.150		7	6	8	21		
21					300.0		
7.450							
8.150		12	12	12	36		
36					300.0		
8.450							
9.150		9	11	10	30		
30					300.0		
9.450							
10.150		11	10	9	30		
30					300.0		
10.450							
11.150		18	20	12	50	300	
50					300.0		
11.450							
12.150		21	22	17	60	290	
50以上				90.0	290.0		
12.440							
13.150		20	25	15	60	230	
50以上				30.0	230.0		
13.380							

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験 深度 (m)	試験名及び結果	削孔月日
						1/6
						1/7